

高等学校活動例 A 「補充的な学習会の実施」

項目 (ア 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム) 観点 (①居場所づくり)

〔活動内容〕

授業内容が分からなかった生徒がつまずきを解消したり、いつでも相談したりできるよう、補充的な学習会を行います。

ねらい ・学習のつまずきを解消し、安心して授業を受けられるようにすることで、自尊感情を高める。【居場所】

対象	全学年	教育課程上の位置付け	(放課後の活動)
指導者	ホームルーム担任、教科担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
4月～	○学習会への参加希望を調査するとともに、学習のつまずきを把握するためのアンケートを実施する。	□アンケートを通して、個々のつまずきの状況を把握し、学習会の計画に生かす。 □学習会を計画するとともに、学習相談に関する計画も立案する。 □学習室のほか、相談できる場を設けるなど、生徒が学習しやすい環境を工夫する。	
通年	○授業の分からないところや苦手なところを、教師に伝える。 ○自ら設定した計画に基づき、学習を進める。	□分からないときにはいつでも質問できるような、受容的な雰囲気づくりをする。 □日常の授業で生かせるような学習計画となるよう、助言する。 □相談があった場合は、受容と傾聴に努め、本人の状況を確認しながら、学習の仕方等をアドバイスする。 ■学習に対する不安が解消し、意欲的に授業を受けている。 【居】	

教師による振り返りの観点の例

- ・生徒のニーズに応じた学習会になっているか。
- ・活動場所は、学習しやすい環境になっているか。
- ・生徒が達成感を味わうことができるよう、学習活動を工夫しているか。
- ・生徒が、学びの姿勢を自ら振り返ることができているか。
- ・授業中における生徒の活躍につながるよう、学習計画の立案を支援できているか。 など

教育相談で用いるカウンセリング技法

- 「受容」 反論したくなったり、批判したくなったりしても、そうした気持ちを脇において、生徒のそんならざるを得ない気持ちを押し量りながら聞きます。
- 「傾聴」 丁寧かつ積極的に相手の話の話を傾けます。よく聞かず、受け止めの言葉を発し、時にこちらから質問します。

【本活動を行うに当たっての留意点等】

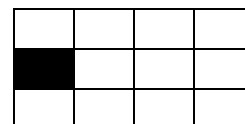
- 学習会は、学習に関する相談のほか、生活や進路等の相談をする機会となるので、学習会をチャンス相談の機会と捉え、生徒の不安を解消するなどして、いじめの未然防止に役立てることが大切です。
- 生徒の学習に対する主体的な姿勢を積極的に褒め、安心して学習に取り組むことができるようにすることが大切です。また、日常の授業との関連を図り、授業での学びを支援しながら、ホームルームでの自己存在感や充実感につなげることも大切です。
- 本活動例の実施については、多くの教師の協力体制が必要です。生徒の様子を把握するため、定期的な教師の交流を行うことが大切です。

【関連する活動】

- ・主体的な学習態度の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計（特別活動） など

高等学校活動例B「保育実習にかかわる取組」

項目 (ア 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム) 観点 (②絆づくり)



【活動内容】

家庭科の授業において、保育にかかわる体験学習を行います。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を気づかい、理解して、互いを尊重し合うことが大切であることを理解する。【絆】 ・幼児と交流し、子どもの特徴を理解することや、保護者、保育士等の子どものかかわり方から、互いの心が通じ合うことの大切さを実感する。【家庭】 		
対象	第1学年	教育課程上の位置付け	家庭科（家庭総合）
指導者	家庭科担当教師、実習助手		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
6月	○乳幼児へのかかわりについての基礎的・基本的な知識・技術を学ぶ。 ・保育所での体験学習を実施することを意識させる。 ・体験学習を実施する前に乳幼児への印象や親になることに対する考えをまとめさせる。	□触れ合い体験実習の前後で、乳幼児への印象や親になることに対する考えの変化について、実施後に生徒が実感できるように実施前の考えをまとめさせる。 ■子どもの発達と遊びや環境とのかかわりについて理解している。【家】	
7月上旬	○体験学習で使用する児童文化財（絵本）を作成する。 ・対象年齢を踏まえ、児童文化財を通じて幼児に伝えたいことを明確にする。 ・作成した絵本について、クラスで内容を発表する。 ・名札を作成する。	□活動のねらいや内容等を確認させる。 □実際に作成した児童文化財を活用し、幼児と交流が図られるよう、グループ内で交流方法を考えさせる。	
7月中旬	○幼児と触れ合う体験学習を実施する。 ・保育所から、注意事項等の説明を受ける。 ・作成した名札をもとに自己紹介をする。 ・グループごとに、クラスに分かれ、交流を図る。 ・疑問に思っていることを保育士に質問する。 ・実習で感じ取ったことをまとめ、全体に発表する。	□注意事項について確認し、徹底が図られるようにする。 □幼児との交流がスムーズに図られるよう、工夫する。 □実施後、乳幼児の印象や親になることに対する考えで変化したことについてまとめる。 ■意欲的に子どもと触れ合ったり、子どもの発達の実際の姿について、観察したりしている。【家】 ■学校生活において、互いを気づかい、相手を尊重しようとしている。【絆】	

【本活動を行うに当たっての留意点等】

○本事例は家庭科の授業に位置付けられていますが、学習の内容や体験活動の内容について、次の通り発展させることが考えられます。

- ・放課後や長期休業中にボランティア活動として、児童福祉施設や幼稚園、小学校等を訪問し、保育や学習サポートを行う。

【関連する活動】

- ・活動例A「補充的な学習会の実施」（放課後、長期休業中）
- ・活動例H「校外活動を通じた地域との交流②」（特別活動）
- ・保育所等の児童福祉施設や幼稚園等におけるインターンシップ など

高等学校活動例C「全校一斉清掃」

項目 (ア 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム) 観点 (③環境づくり)

【活動内容】

全校一斉に清掃活動に取り組み、学校内及び周辺的环境を整えます。

ねらい ・学校内外の環境を整備し、落ち着いた学校生活を送ることができる環境の中で規範意識を高める。【環境】
 ・学習環境の整備について関心を持ち、友達と協力して、自主的、自立的に清掃活動に取り組もうとする態度を育成する。【特別活動】

対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動（生徒会活動）
指導者	ホームルーム担任を中心とした全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等	■主な評価
事前準備	○美化委員会の生徒が中心となり、全校生徒による清掃活動を企画し、準備を進める。 ・各ホームルームから清掃活動についてのアイデアを募集する。	□生徒会や美化委員会だけではなく、全ての生徒が主体的に参加できるよう工夫する。	
適宜	○役割分担に基づき、全校一斉に清掃活動を行う。	□各ホームルームにおいて、活動のねらいや内容等を確認させる。 ■自分の役割を理解し、意欲的に参加している。【特】 ■作業を手伝うなど友達と協力しながら意欲的に活動に取り組んでいる。【環】	
	○全校生徒を対象に、清掃活動についての事後アンケートを実施する。	□アンケートを全教師が供覧し、今後の指導に生かす。	
	○学習環境を整えるための「学習委員会だより」や「美化委員会だより」を継続的に発行する。 ・アンケート結果を掲載する。 ・生徒の声を掲載する。	□環境づくりに関わる活動を各委員会で分担し、継続的に取り組ませる。	

活動例Fにつながる内容

活動例Lにつながる内容

事前アンケートの例

1 校内や校外でここはきれいにした方がよい！という箇所をあげてください。

2 全校一斉清掃における自分の目標を教えてください。

事後アンケートの例

1 清掃活動実施前と実施後で、活動に対する気持ちの変化はありましたか。
・あった ・なかった

2 その理由を書いてください。

【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 生徒が学習環境の整備について関心を高めることができるよう、次のような活動を実施することが考えられます。
 - ・学習環境の整備について考える機会を与えるよう「美化委員会だより」等で特集を組む。
 - ・全校生徒を対象に「学習環境を整えるためのマナー」についてアンケートを実施する。
- 清掃の前と後で大きく変化した箇所を明らかにし、活動の達成感を高めるなどの工夫も考えられます。
- 全校一斉での活動が難しい場合は、学年や学級、部活動ごとに活動を行います。

【関連する活動】

- ・活動例F「学習環境の整備」（特別活動）
- ・活動例L「いじめの未然防止に関する活動のシェアリング」（放課後の活動）

高等学校活動例D「教育相談の手法を取り入れた学級づくり」

項目 (イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点 (①居場所づくり)

〔活動内容〕

ホームルーム活動において、教育相談の手法の一つである、構成的グループエンカウンターを取り入れます。

ねらい	・(相互理解) 協力して落ち着いたホームルーム生活を築いていこうとする態度を育てる。【居場所】【特別活動】 ・(見学旅行) 見学旅行に向けた取組の中で、集団を高めるための方法について理解し、それに基づいた実践を通じて、ホームルームへの所属感や連帯感を深める。【居場所】【特別活動】		
対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動(ホームルーム活動)
指導者	ホームルーム担任		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等	■評価
4月	○相互理解を促進する。 事前の活動「二者択一」、「他者紹介」	□欠点や短所が出たら、別の見方をさせてほかの言い方ができないか、全体に促し支援する。(リフレーミング)	
	①例となるワークシートの項目を読んで、自分が選択したものに○を付ける。選択した理由は何かをそれぞれ考えておく。 ②2人1組になり、ワークシートを基に、自分が選択した項目について、理由を含めて話し合う。 ③グループになり、それぞれのペアのことを紹介し合う。 ④友人の紹介を聞いて、思ったことや気付いたことを話し合う。 ⑤教師が感じたことを伝える。 ⑥最後に感じたことや気付いたことを発表する。		
		■よりよいホームルームを築くことの意義や、集団への参画の仕方、話し合い活動の仕方などを理解している。【居】【特】	
9月	○見学旅行に関わる活動を通じて自己理解や他者理解をより深めていく。 事前の活動「ブレインストーミング」	□否定的な発言をしないよう注意を促す。 □自由に発言ができる雰囲気醸成するため、状況を見て数回実施する。	「私の四面鏡」ワークシート例
※見学旅行を10月末に実施	①テーマを設定し、3分間で自分の考えをできるだけたくさん紙に書く。(テーマの例:「自主研修で行きたいところは」、「見学旅行で買いたいお土産は」など) ②グループの中で発表する。友人と同じ意見は「同じです」と言う。 ③グループで合計いくつ出せたか、どのようなアイデアが出たか発表する。(数にこだわらない) ④最後に感じたことや気付いたことを発表する。		
11月	事後の活動「私の四面鏡」	①ワークシート「四面鏡」にグループの氏名を記述する。 ②「四面鏡」の「私から見た私」の欄に、自分で○を5つ付ける。 ③グループの一人一人について、それぞれ○を5つずつ考える。 ④順番を決め、最初の人「四面鏡」を出す。他の人はその人に合うと考えた○の箇所について伝える。 ⑤順番に、全員繰り返す。 ⑥自分の「四面鏡」を見て、感じたこと、思ったことをグループで伝え合う。	
		■見学旅行の取組を通して自分の成長や友達の良さを振り返り、成果と課題をまとめている。【居】【特】	

※本事例では、構成的グループエンカウンター活動の評価は行いません。本活動においては、4月と11月の⑥や9月の④でのシェアリングを行う際に、その様子を教師が観察し、その後の指導に生かしていくことが考えられます。

【本活動を行うに当たっての留意点等】

○教育相談は、教師と生徒が1対1で行う面談だけではなく、例の他にもピア・サポート活動やソーシャルスキルトレーニングなど、授業の内外で実施することが考えられます。その際、次のことに留意します。

- ・実施するねらいを明確にし、計画的に実施する。
- ・各教科等で実施する際は、それぞれの手法の特質を生かした活動を行うことが大切であり、実施すること自体がねらいとならないようにする。
- ・これらはあくまで、「居場所づくり」に関わるものであり、「絆づくり」も併せて行うことが必要である。

【関連する活動】

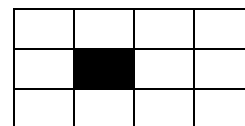
- ・ホームルームや学校の生活づくりに関わる活動や学校祭、球技大会など各種行事(特別活動)

○活動例Dは、居場所づくりと主に生徒会活動が関連した活動を示すマトリクスですが、本事例においては、生徒会による絆づくり(活動例E)を支えるための活動として位置付けています。

(構成的グループエンカウンター各内容については、「構成的グループエンカウンター辞典 國分康孝 國分久子 図書文化」から作成)

高等学校活動例E「『どさんこ☆子ども全道サミット』等に関わる取組」

項目(イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点(②絆づくり)



〔活動内容〕

「どさんこ☆子ども全道サミット」や、各管内で実施されているいじめに関する子ども会議に向けた準備や会議の報告をします。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止に関する会議等を活用し、生徒の活躍の機会をつくることで自己有用感を高めるとともにいじめは絶対に許されないことであるとの意識を高める。【絆】 ・生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。【特別活動】 		
対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動（生徒会活動）
指導者	生徒会担当教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
4月	○生徒会が中心となり、いじめの未然防止に向けた全校の取組を策定する。	□年間を通して、いじめの問題について考えられるよう様々な取組を検討させる。	
7月	○「いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクール」の標語やポスターの作成を呼び掛ける。 ・代議委員会で、各HRに呼び掛ける。 ・呼び掛けのポスターを校内に掲示する。	□多くの生徒が参加するよう工夫させる。	
8月～	○生徒会が中心となり、「子ども会議」の準備を進める。 ・子ども会議の内容を考えるなど、参加に向けた協力をする。 ・いじめの根絶に向けた自校の取組をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ■いじめの根絶に向けた自校の取組を全ての生徒が理解している。【絆】 ■いじめの根絶に向けた自校の取組を通して、生徒相互の心の交流を図り、集団における所属感や連帯感を高めている。【特】 	
10月	○「子ども会議」への参加 ・自校の取組を発表する。 ・グループ協議を進行するなど運営に協力する。	□参加者が活発に交流できるよう責任をもって運営させる。	
	○会議の内容を全校生徒に報告する。 ・成果物を掲示する。 ・会議の内容を報告する通信を発行する。	■会議の内容が全校生徒に伝わるよう工夫している。【絆】	
	○生徒会が中心となり、会議の成果を受けて、自校に必要な今後の取組について検討する。	□他校の実践等を参考にしながら、自校の取組をさらに充実させるためにはどうすればよいかを、主体的に考えさせる。	

【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 「絆づくり」が中心となる活動であることから、生徒の主体的な活動となるよう指導します。
- 「どさんこ☆子どもサミット」等の会議には、主に、生徒会の生徒が参加しますが、標語やポスターを作成させるなど事前の活動に多くの生徒を参加させ、いじめの未然防止に向けて意識を高める工夫をします。

【関連する活動】

- ・自己及び他者の個性の理解と尊重（特別活動）

高等学校活動例 F 「学習環境の整備」

項目 (イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点 (③環境づくり)

【活動内容】

生徒会が中心となって、挨拶運動を実施したり、制服の着用マナーに関するポスターを掲示したりするなどの活動に取り組みます。

- ねらい ・学校生活を送る上でのマナーや規範を守る活動に自主的・自立的に取り組み、自己指導能力を高める。
【環境】
 ・いじめのない安心した学校生活を送るため、学習環境を整備する活動に自主的・自立的に参加しようとする態度を育てる。**【特別活動】**

対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動）
指導者	生徒指導部（生徒会担当）、ホームルーム担任を中心とした全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等	■主な評価
4月 ※月に2 回程度	○生徒会と担当委員会が中心となって登校時間に挨拶運動を進める。	□互いの存在を意識させ、仲間の異変や孤立に気付けるように声掛けをする。 ■元気に挨拶をし、充実した学校生活を送ろうとしている。 【環】	
5月	○学校生活を送る上でのマナーの意義について考える。 ○生徒会が、携帯電話等の使用やトイレの使用、公共交通機関での登下校など生活上のマナーをテーマに標語を募集し、全校生徒が1人1つ以上を作成する。（ホームルーム活動） ○全校や学年、ホームルームで優秀作品を選び表彰する。	□生徒会通信や代議委員会等を通し、活動のねらいや内容等を全校生徒に伝える。 □全道的な標語コンクールに応募したり、他校の優秀作品を掲示したりするなどして、活動の活性化に努める。 ■学習環境の向上のため、生徒会の様々な活動に積極的に参加しようとしている。 【環】【特】	
	○生徒会の担当委員会が中心となり、標語を活用したポスターを作成し、掲示する。 ○集まった標語や完成したポスターから問題の解決に向けて、生徒同士で話し合う。（ホームルーム活動）	□掲示物を日常的に目にする事で、規範意識の向上や他人を思いやる心の醸成へとつなげる。 □作成したポスターの一覧を見せ、マナーについて考えさせることにより、いじめの未然防止や落ち着いた学校生活、進路実現へとつなげられるようにする。	

標語の募集の例

制服の着用マナーに関するポスターの作成例

〈標語を募集します！〉
 学校生活上のマナー（トイレや廊下の利用など）に関する標語を1つ以上作成してください。
 （昨年度の優秀作品）
 ・○○○○○ ○○○○○○ ○○○○ ○○○○
 （2年B組 ○○○○）

__年 __組 氏名



【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 規律に関する活動は教員が主体となり実施されることが多いですが、生徒会が中心となり、生徒を意識した活動を多く取り入れることにより、自ら進んで取り組む意識が向上することが考えられます。
- 携帯電話等の使用や生活マナーを意識した標語の作成の際、取り上げられた内容が特定の生徒の行動を非難したり、制限したりするものとなっていないか、教員側で十分に確認します。
- 本活動例は、「環境づくり」に位置付けていますが、生徒会が主体となって行うことや事後の話し合い活動をより重視することにより、「絆づくり」に位置付けることもできます。

【関連する活動】

- ・心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立（特別活動） など

高等学校活動例 F② 「『ほっと』を活用した教育相談活動」

項目 (イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム) 観点 (③環境づくり)

〔活動内容〕

「ほっと」の結果分析に基づき、教育相談を実施するとともに、ホームルーム活動や生徒会活動を通して、生徒が悩み等を相談しやすい環境づくりを進めます。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のことや友人関係のことなどを安心して相談し合える環境を整え、落ち着いて学習や生活を送ることができるようにする。【環境】 ・楽しく豊かな学校生活を送るため、他の生徒と協力し合いながら積極的に活動に取り組む態度を育てる。 <p>【特別活動】</p>		
対象	第1学年	教育課程上の位置付け	特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動）
指導者	ホームルーム担任及び生徒指導部（生徒会担当）		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
5月	○「ほっと」及び「アセス」を実施し、コミュニケーションスキルや学校環境適応感の状況、それらの相関関係等を分析し、分析結果を全教職員で共有する。	<input type="checkbox"/> 生徒一人一人のコミュニケーションスキル（13要素）の得点や因子得点を分析する際、道内平均との差やクラス平均との差に着目して分析する。 <input type="checkbox"/> 「ほっと」の分析結果を補足するため、「アセス」のデータも活用し、多角的・多面的な生徒理解に努める。 <input type="checkbox"/> 必要に応じて、いじめアンケートや生活アンケートの結果も併せて分析する。	
6～7月	<p>【教育相談週間】</p> <input type="checkbox"/> 教育相談を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・放課後や休み時間を利用して実施する。 	<input type="checkbox"/> 担任だけでなく、必要に応じて養護教諭等、複数の教職員で相談を行う。 <input type="checkbox"/> 相談しやすいよう場所や机・椅子の配置等に留意する。 <input type="checkbox"/> 生徒のよさを積極的に認めるなど、自尊感情や自己肯定感を高めるような対応をする。 ■自分の悩みや不安について相談している。【環】	
7月	<input type="checkbox"/> クラス討議を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が提示したテーマについて、小グループに分かれ、KJ法を用いながら解決策を話し合う。 ・話し合った解決策を発表し、集会に向けたクラスのまとめを行う。 <input type="checkbox"/> 生徒集会を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各クラス代表が解決策を発表する。 ・発表された解決策について、質疑等を行い、生徒会が中心となり、今後の取組を決定する。 	<input type="checkbox"/> 「ほっと」の分析結果や教育相談の結果を活用して、生徒が抱えている悩みをテーマとして設定する。テーマは、生徒が自分達で解決することができる方法について話し合うことができるようなものにする。 <input type="checkbox"/> 話し合いの目的は、正しい解決方法を見つけることではなく、お互いの考えを聞き合いながらよりよい解決方法を考えることであることを理解させる。 ■グループの話し合いに自ら進んで参加している。【特】 ■他の生徒との話し合いを通じて、安心して落ち着いて話し合える環境づくりの大切さに気付いている。【環】	

【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 教育相談やクラス討議、生徒集会において、生徒の悩みを取り上げるとともに、解決策を全体で検討することにより、自尊感情や自己有用感の高まりや、相談しやすい環境の確立が期待されます。
- 「ほっと」等の結果については、生徒の状況に応じて、自分自身を振り返る資料として教育相談等で提示して活用します。その際、生徒が自分自身のよさや課題に気付くため、データを活用した学校独自の「振り返りシート」を作成することも考えられます。
- 年度末に「ほっと」等を実施することで、生徒の変容や取組の成果を検証し、教育活動の改善を図ります。
- 第2、3学年のクラス編成の引継ぎ資料として、「ほっと」とその結果に基づく取組を整理して活用します。
- 「ほっと」の他にも、「アセス」や「Q-U」などを用いて学級適応感やクラスでの人間関係の状況を把握し、学級経営や教科指導の工夫改善を図ることが考えられます。

【関連する活動】

- ・活動例D「教育相談の手法を取り入れた学級づくり」（特別活動） など

高等学校活動例G「校外活動を通じた地域との交流①」

項目(ウ 社会教育(家庭や地域)と連携した体験活動との関連を図ったプログラム) 観点(①居場所づくり)

〔活動内容〕

全校生徒が、地域の人々と協力しながら清掃活動などのボランティア活動に参加します。

ねらい	・地域の一員として、自分にもできることがあると気付くことにより、自己存在感や自尊感情を高める。【居場所】 ・地域に貢献する活動を通じて、自己の役割を自覚させ、友達や地域の人々と協力し、友達と信頼し支え合おうとする人間関係を形成する。【特別活動】		
対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動(ホームルーム活動、学校行事)
指導者	全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
5月	○美化委員会または保健委員会を中心に地域の環境に関する課題を把握し、活動内容の検討を行う。 ○活動に必要な物の確認、準備をする。	□生徒会役員が町内会の方と打合せを行うなどして、生徒主体に地域と連携できるよう生徒指導部を中心に計画を立てる。 □異学年で班を構成させるなど、3年生がリーダーシップを発揮できる場や交流も取り入れさせる。 □関係機関(市役所・町村役場や最寄り駅、地域の人々など)との連絡調整をする。 ※ゴミの分別、収集についての確認(市役所・町村役場) ※清掃を行う場所(駅など)の確認 ■地域の方との打合せや異学年での話し合いなど、積極的に他者にかかわる。【特】	
6月	○通学路や駅など、普段利用している場所を中心に地域の人々とゴミ拾い、清掃活動を行う。 ○生徒会長が地域の人々に挨拶をする。 ○地域の人々からのお礼の言葉を聞く。 ○アンケートや振り返りを行う。(ホームルーム活動)	□地域の人々と協力して活動するよう指導する。 ■他者のよい点に気づき、助け合う大切さに気付いて協同して活動している。【特】 ■ボランティア活動の意義を理解している。【特】 ■生徒が自己存在感、自尊感情を得ている。【居】	
	○アンケート結果を活用し、振り返りを行い、気付いたことなどを交流する。(S HRやホームルーム活動等)	□アンケート結果をまとめたものをもとに活動を振り返り、10月以降に行う活動への関連付けを図る。(例：福祉施設への訪問、交通安全活動など)	

地域の人々からお礼の言葉をもらったり、市町村の広報誌等で取組や地域の声をとり上げてもらったりすることで自己存在感がより高まります。

アンケートの例

1 今日のボランティア活動を通して、どのようなことが地域の役に立ったと思いますか。 <input type="text"/>	3 今日のボランティア活動を通して、他にも地域に貢献できそうなことがないか考えてみましょう。 <input type="text"/>
2 一緒に活動した仲間のどんなよい面を見つけることができましたか。また、班でどんなことを協力して行うことができましたか。 <input type="text"/>	※3で出されたアイディアについては、10月に行う地域貢献活動での実施を検討します。

〔本活動を行うに当たっての留意点等〕

- 保護者にも参加を呼び掛けたり、学校だよりで内容を家庭に知らせたりするなど、活動が家庭に理解されるよう働きかけます。(環境づくりにつながる活動)
- 本活動例は、教師主導で行っていますが、活動例Hのように生徒会が主体となって行う内容にすると「絆づくり」に位置付けることもできます。

〔関連する活動〕

- ・活動例H「校外活動を通じた地域との交流②」(特別活動)、活動例I「地域文化展示コーナーの設置」(放課後の活動) など

高等学校活動例G②「地域等の人材を活用した進路講話」

項目 (ウ 社会教育 (家庭や地域) と連携した体験活動との関連を図ったプログラム) 観点 (①居場所づくり)

【活動内容】

卒業生から話を聞いたり、希望する進路について互いに語り合ったりすることで、安心して学習できる居場所づくりを進めます。

ねらい ・希望する進路についての夢や不安を語り合うことにより、安心して学校生活を送ることができる。

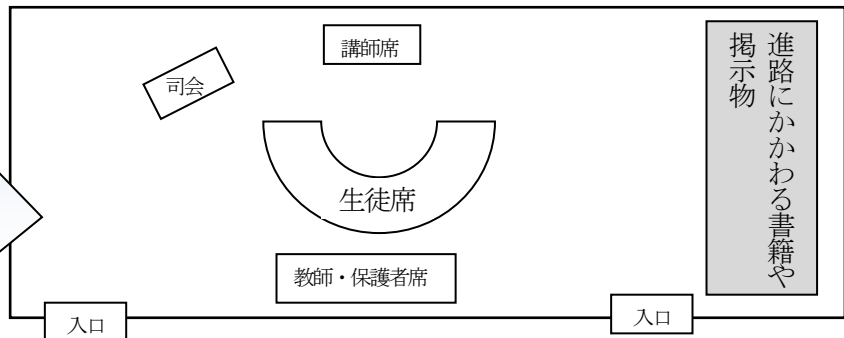
【居場所】

・卒業生等の講師から話を聞いたり、希望する進路についてグループの仲間と語り合ったりして、主体的な進路選択に向けて意識を高めることができる。【特別活動】

対象	第2、3学年及び希望者	教育課程上の位置付け	特別活動 (学校行事) 勤労生産・奉仕的行事
指導者	進路指導部を中心とした全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
事前準備	○活動のねらいや内容を生徒に伝え、事前アンケートを行う。 ・期待していることや不安なこと ・知りたいこと ○担任を中心とした学年団により、参加生徒を募り、グループの調整を行う。	□全クラスに呼びかけをするなど生徒が積極的に参加できるよう工夫する。 □進路指導部が中心となり、卒業生や地域住民への協力依頼を進める。 □事前アンケートの結果を全教師が共有し、個人面談等の教育相談への活用など今後の指導に生かす。	
適宜	○進路講話を行う。 (考えられる内容) ・講話 ・質疑応答 ・ワークショップや協議 ・講師からの激励の言葉	□各ホームルームにおいて、活動のねらいや内容等を確認させる。 ■グループで意見交換等をする際、積極的に交流を図っている。【居】	
	○参加生徒を対象に、進路講話についての事後アンケートを実施する。	□事後アンケートの結果を全教師が共有し、個人面談等の教育相談への活用など今後の指導に生かす。 ■自分の将来の生き方や生活について夢や希望をもっている。【特】	
	○「進路指導室だより」や「進路の手引き」等の発行により生徒PRを行う。 ・アンケート結果を掲載する。 ・生徒の声を掲載する。	□進路指導部による情報発信や、生徒の進路希望調査を継続するなど、進路指導室が居場所の選択肢の一つとなるよう工夫する。	

- ・会場は、参加生徒数により、調整をします。
- ・車座にしたり、講師席と生徒席を近づけて配置したりするなど、話しやすい雰囲気を実施できるよう工夫をします。
- ・講師が話すことに慣れていない場合は、教師が事前アンケートをもとにインタビュー形式で進行するなど工夫をします。

会場配置の例 (進路指導室)



【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 生徒が自らの進路について関心を高めることができるよう、次のような活動を実施することが考えられます。
 - ・進路について考える機会を与えるよう「進路指導室だより」等で進路講話特集を組む。
 - ・全校生徒を対象に「興味のある職業」等についてアンケートを実施する。
- 参加することによる達成感の高まり等、講話の前後で意識が変化した点を明らかにするなどの工夫も考えられます。

【関連する活動】

- ・高等学校活動例B「保育実習にかかわる取組」(家庭科) ・就業体験 (インターンシップ) (特別活動) など

高等学校活動例H「校外活動を通じた地域との交流②」

項目(ウ 社会教育(家庭や地域)と連携した体験活動との関連を図ったプログラム) 観点(②絆づくり)

【活動内容】

生徒会が主体となって、地域の関係機関と連携を図り、交通安全運動を行います。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力して地域に貢献する活動を通して、仲間のよさに気付くとともに、自己有用感を高める。【絆】 ボランティア活動を通して、自分たちの力が地域に役立てることができることに気付くとともに、他にも役立てることについて、その方法などを考え、判断し、協同して実践する態度を育てる。【特別活動】 地域の人々との交流を図り、地域の一員としての連帯感を深める。【特別活動】 		
対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動)
指導者	全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会がアンケートで出した意見をまとめ、10月の活動内容について話し合う。 ○話し合いの結果について、各学級に伝える。 ○関係機関との連絡調整をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・警察署 ・町内会 ・PTA ○警察官を招いて交通安全教室を行う。 ○活動に必要な物の準備、確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> □活動例Gの成果を想起させる。 □生徒の自発性や創意工夫を生かした活動となるよう、助言する。 ■交通安全運動に関心をもち、互いに協力しながら自主的に準備を進めている。【絆】【特】 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 【〇〇高等学校 秋の交通安全運動】 ○交通安全運動を実施する。 ○アンケートを行う。(LHR) 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒の交通安全への意識を喚起する。 ■交通安全運動の意義を踏まえ、自分の役割を果たそうと友達や地域の人々と協力して活動している。【絆】【特】 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート結果を活用し、振り返りを行い、気付いたことなどを交流する。(SHRやLHR) 	<ul style="list-style-type: none"> □アンケート結果や映像などを提示し、活動を想起しやすくする。 ■今後の地域とかかわる活動に意欲的になっている。【絆】 	

アンケートの例

1 今日のボランティア活動を通して、地域や仲間とどのような絆ができましたか。	3 次年度はどのようなことにチャレンジしてみたいですか。次年度の参考にします。
<input type="text"/>	<input type="text"/>
2 一緒に活動した仲間のどのようなよい面を見つけることができましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 1年限りで終わってしまうのではなく、生徒の主体的な地域への貢献活動を学校の伝統として連続して行うことが考えられます。
<input type="text"/>	

【本活動を行うに当たっての留意点等】

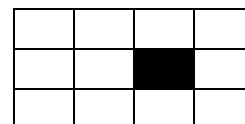
- 「絆づくり」が中心となる活動であることから、生徒の主体的な活動となるよう指導します。
- 関係機関と連携する際には、教師が必要に応じて連絡調整を行うことが大切です。

【関連する活動】

- ・活動例G「校外活動を通じた地域との交流①」(特別活動)、活動例I「地域文化展示コーナーの設置」(放課後の活動) など

高等学校活動例H②「季節に合わせたボランティア活動」

項目 (ウ 社会教育 (家庭や地域) と連携した体験種との関連を図ったプログラム) 観点 (②絆づくり)



【活動内容】

保育所幼児や独居老人へのボランティア活動を行います。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力して地域に貢献する活動を通して、仲間のよさに気付き、立場の弱い人たちに対して、思いやりの気持ちをもつことができる。【絆】 仲間や地域の人たちとの交流を通して、自己有用感を高めることができる。【絆】 		
対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動 (学校行事) 及び放課後の活動
指導者	生徒会担当、委員会担当、部活動顧問を中心とした全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会を中心にボランティア委員会を設置する。 ○「ボランティア講演会」に参加する。 <ul style="list-style-type: none"> ・講師の話の内容を理解する。 ・自分にできそうなことを考える。 ・年間の活動に抱負を抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> □「種まき」や「講演会」など年度の早い時期からの活動となるので、年度当初は教師が主体となって活動を進める。 □外部講師の話と合わせて委員会から年間計画を発表させる。 □振り返りの時間を確保し、理解や考えを深めるようにする。 ■積極的にボランティア活動に取り組もうとしている。【特】 	
5月～11月	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所の野菜づくりを手伝う。 <ul style="list-style-type: none"> ・畑おこし、水やり、草取り等の作業を定期的に幼児と一緒にやる。 ・種まき、収穫など、保育所幼児が取り組むイベントと一緒にやる。 	<ul style="list-style-type: none"> □長期間にわたり計画的に進める必要があるため、保育所との連携を密にする。 □野菜の育て方を近隣の農家や高齢者に聞くこと等を指導する。 ■幼児の願いや思いを理解し、自分の役割を理解し、意欲的に作業に参加している。【絆】 ■積極的にボランティア活動に取り組もうとしている。【特】 	
12月～2月	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所の雪遊びの準備等を手伝う。 <ul style="list-style-type: none"> ・雪像づくり、雪山づくり、すべり台づくりなどを幼児と一緒にやる。 ○独居老人宅の除雪作業を手伝う。 <ul style="list-style-type: none"> ・独居老人とのコミュニケーションを図りながら、作業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □雪遊びの準備については、保育所だけでなく、地域の冬祭りのイベントの手伝い等のボランティア活動も考えられる。 □作業だけでなく、保育所幼児と一緒に遊んだり、独居老人への声掛けをしたりする時間を設け、地域での絆づくりを進めていくようにする。 ■高齢者を取り巻く状況や思いを理解し、自分の役割を理解し、意欲的に作業に参加している。【絆】 	
2月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間の取組について紹介し、校外で情報を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや委員会だより、活動マップ等で紹介する。 ・自治体と連携し、広報や社協だより等で紹介してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> □取組の紹介を通じて、仲間の頑張りを称える雰囲気づくりを進める。 □保護者や地域の方に情報を知らせることで、学校や生徒の取り組みを理解してもらうとともに、生徒自身が自分の高校への誇りを強くもつことで、生徒同士の連帯感を高めるきっかけづくりとする。 	

【本活動を行うに当たっての留意点等】

- ボランティア活動はあくまで自身を高めるための活動であり、弱者を救う活動を指す言葉ではありません。活動の正しい理解のため、地域の社会福祉協議会の方を招いて講話をしていただくなどの事前学習を取り入れることで、生徒が正しく取組の意義を理解し、成果をよりよいものとしていくことができます。
- 本事例は、生徒同士の絆づくりを強める活動であるとともに、生徒が将来にわたり地域との絆づくりを進めるきっかけの場ともなります。また、活動を通して地域の方の高校や生徒に対する関心が高まり、保護者や教師の目が届かない場所でのいじめの未然防止や、悩みをもった生徒が家や学校以外に相談する場所や居場所を広げるきっかけにもなります。こうした観点から、本事例のような活動は継続的な実施が大切であるとともに、関係する団体等との連携を常に密にしておくことが大切です。
- 他にも、「芸術の秋」にかかわって、いじめに関わることや、防犯・防災などお年寄りの生活に関わることに ついて、劇にして披露するといった活動も考えられます。

【関連する活動】

- ・活動例B「保育実習にかかわる取組」、活動例G、H「校外活動を通じた地域との交流①②」(特別活動)、活動例I「地域文化展示コーナーの設置」(放課後の活動)、ボランティア活動、社会福祉について (家庭科)
- ・友情について考える、思いやりについて考える (特別活動 (ホームルーム活動))

高等学校活動例Ⅰ「地域文化展示コーナーの設置」

項目(ウ 社会教育(家庭や地域)と連携した体験種との関連を図ったプログラム) 観点(③環境づくり)

【活動内容】

委員会や部活動で作成した作品や、地域で活動している人々や団体の作品を、学校に展示します。

ねらい ・生徒が主体的に校内の文化的環境の整備を図り、全ての生徒が安心して落ち着いて学校生活を送ることができるようにする。【環境】			
対象	全学年	教育課程上の位置付け	(放課後の活動)
指導者	全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
10月	<p>○文化委員会と文化系の部局長を中心に、校内の文化的環境を整備する取組について話し合う。 (例：〇〇高校アートプロジェクト)</p> <p>○関係機関との連絡調整をする。</p> <p>○委員会を中心に話し合った内容について、評議委員会などを通して各ホームルームに提案し、意見を取りまとめさせる。</p> <p>○活動に必要な物の準備、確認をする。</p>	<p>□活動の意義について考えさせる。</p> <p>□これまでの地域とのかかわりについて想起させる。</p> <p>□委員会の生徒を中心に連絡調整をさせる。</p>	
11月	<p>○自分たちで計画した、環境づくりの活動を地域の人々と協同で実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段ホール、玄関などに絵画などを展示する。(美術部) ・書を表示する(書道部) ・地域住民と一緒に花を飾る。(華道部) ・活動の様子を撮った写真を使い、地域住民とカレンダーを作成する。(広報局・新聞局) ・作成したカレンダーをお世話になった関係機関に配布したり、教室で使用したりする。 ・図書室の整備(図書局) ・本プロジェクトのドキュメントを紹介する。(放送局・新聞局) など </div> <p>○作品の鑑賞を全校生徒に呼び掛ける。</p>	<p>□部局員の他にも、活動に参加できるよう、文化的活動に関心がある生徒についての情報を提供させる。</p> <p>■活動の意義を踏まえ、主体的に活動に取り組んでいる。【環】</p> <p>□作品を大切に管理し、いたずらをしないよう指導する。</p> <p>■活動を肯定的にとらえ、作品に関心をもって落ち着いて鑑賞している。【環】</p>	
年間を通して	○今回の活動をきっかけに、定期的に作品の交流を行い、文化的環境を整えていく。	□今後、地域の人々と一緒にできる活動について考えることができるよう、情報を提供したり、助言をしたりする。	

【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 様々な活動を通して築いた地域の人々との絆を生かし、地域文化展示の計画を進めます。
- 期間が限定される活動とならないよう、定期的に、地域住民や文化団体の人々と交流します。
- 文化部などの活動とコラボレーションするなどして、文化の日や学校祭の期間に作品を一般公開したり、学校の一部を展示会場として開放したりすることも考えられます。その際に、生徒が自らパンフレットを作成したり、地域住民を案内したりすると一層効果的です。
- 本活動例は、「環境づくり」に位置付けていますが、活動を通じて、自分の得意なことを見つけ、友達から認められることに焦点を当てることで、「絆づくり」としても位置付けることができます。

【関連する活動】

- ・活動例G、H「校外活動を通じた地域との交流①②」(特別活動)
- ・各種作品の製作(芸術科) など

高等学校活動例 J 「性と生を考える」

項目 (E (その他) 道徳教育・人権教育・情報モラル教育等との関連を図ったプログラム) 観点 (1)居場所づくり

〔活動内容〕

デートDVについての講演を聞いたり、ロールプレイングなどを行います。

ねらい	・デートDVについての正しい知識や、それを防ぐための心構えを身に付け、自分を大切にするとともに、お互いを尊重し合う態度を身に付ける。【居場所】【特別活動】		
対象	第2学年	教育課程上の位置付け	特別活動（ホームルーム活動）
指導者	外部講師、生徒指導部、第2学年ホームルーム担任、養護教諭等		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
5月	<p>(デートDV講演会)</p> <p>○チェックリストで自分のDV行為についてチェックする。</p> <p>○デートDVを事例としたロールプレイングを行う。</p> <p>○デートDVについての説明を聞く。</p> <p>○自分が被害を受けた時や、相談された時の対処方法を考える。</p> <p>○対等な関係について話し合う。</p> <p>○考えたことをもとに、同じシーンでロールプレイングを行う。</p> <p>○アンケートを行い、活動を振り返る。</p>	<p>□生徒指導部が中心に計画を立てる。</p> <p>□ロールプレイングや話し合い活動を取り入れた活動となるよう講師と打合せを行う。</p> <p>□生徒の理解が深まるよう、DVDを活用する。</p> <p>□男女交際において、無意識にDV行為が行われることがあることに気付かせる。</p> <p>□デートDVを事例としたロールプレイングを通しての気づきを話し合わせる。</p> <p>□考えが深まるよう、2回ロールプレイングを行ってみて、違いをグループで話し合わせる。</p> <p>■身近な異性との会話の中で、どのような関係が支配的であり、どのような関係が対等であるか理解できている。【特】</p> <p>■自他ともに尊重できる人間関係が大切なことに気付くことができる。【居】【特】</p>	
	○SHRやホームルーム活動において、アンケート結果を活用し、振り返りを行い、気付いたことなどを交流する。	□SHRやホームルーム活動時に、ホームルーム通信や保健だより等、感想をまとめた通信を配付し、自他の意見の類似や違いに気付くことができるよう指導する。	

アンケートの例

<p>1 デートDVがどんなものか、知っていましたか。</p> <p>・知らなかった ・思っていたのと違った ・知っていた</p>	<p>3 今後、あなたの身近でデートDVを見たり聞いたりした時に、どういった援助ができると思いますか。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>
<p>2 今回の授業を通して、「対等な人間関係」とは、どのような関係だと考えますか。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<p>4 今日の授業を受けて、印象に残ったことや感想などを自由に書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>

【本活動を行うに当たっての留意点等】

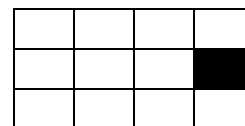
- 倫理や保健など、関連する教科等で人権に関する学習や性に関する指導を系統的に実施します。
- アンケートの結果を職員室で回覧し、生徒の理解度及び実態を把握し、今後の指導に役立てます。
- 講演への保護者の参加を呼び掛けたり、内容や生徒の感想を家庭に知らせたりするなど、学習の内容が家庭に理解されるよう働きかけます。

【関連する活動】

- ・健康・人権に関する学習（保健体育科、家庭科、公民科）
- ・福祉・健康に関する課題の設定、追究、まとめの実施（総合的な学習の時間） など

高等学校活動例K「情報モラルの向上」

項目(エ(その他)道徳教育・人権教育・情報教育等との関連を図った取り組み) 観点(②絆づくり)



【活動内容】

スマートフォンや携帯電話などのSNSを適切に使うスキルや知識について学習します。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンや携帯電話の望ましい活用の仕方について理解し、よりよい人間関係を形成する力や社会性を育む。【絆】 ・スマートフォンや携帯電話の望ましい活用の仕方について考え、情報社会の一員としての自覚をもち、責任ある行動をとろうとする態度を育成する。【特別活動】 		
対象	全学年	教育課程上の位置付け	特別活動(学校行事)
指導者	生徒会、ホームルーム担任を中心とした全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等	■主な評価
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会の協力の下、情報モラル委員会を中心に、「スマートフォン・携帯電話の利用マナーを考える集会」の準備を進める。 ・各ホームルームに、利用マナーに関するアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> □情報モラル委員会を組織する。 □委員会では説明を聞くだけではなく、グループ協議を位置付けるなど多くの生徒が主体的に参加できるよう工夫させる。 □各ホームルームにおいて、活動のねらいや内容等について、ホームルーム委員を通して確認させる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> (スマートフォン・携帯電話の利用マナーを考える集会) ○利用の実態やトラブルの例を報告し、どのようなことを注意したらよいかをグループで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒会だけではなく、各委員会がグループの話し合いを補助するようにする。 □視聴覚機器を活用し、生徒の理解が深まるよう工夫するなど講師と事前に打合せをする。 ■SNSの正しい使い方について考え、意欲的に協議に参加している。【絆】【特】 	
年間を通して	<ul style="list-style-type: none"> ○集会の説明やアンケートをもとにスマートフォンや携帯電話に関するトラブルの未然防止のための「生徒会だより」を継続的に発行する。 ○委員会だよりをまとめたものを「ネットマナーのしおり」として編集する。 	<ul style="list-style-type: none"> □各ホームルームにおいて、活動のねらいや内容等について、ホームルーム委員を通して確認させる。 ■活動における自分の役割を理解し、意欲的に各種資料の作成に参加している。【特】 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会が全生徒に「スマートフォン・携帯電話利用のマナー」についてアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> □アンケート結果について、新聞局・放送局と連携し、全校に発信する。 	

生徒へのアンケートの例

- 1 ネットトラブルに遭った経験があれば概要を記入してください。
- 2 その際、主に誰に相談しましたか。

保護者へのアンケートの例

- 1 スマートフォンや携帯電話の利用について家庭内でルールがあれば概要を記入してください。
- 2 皆さんが考える、望ましい利用の仕方とはどのようなものですか。

【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 生徒が身近な問題としてとらえることができるよう、生徒の実態を踏まえた実践となるよう工夫します。
- 作成した「ネットマナーのしおり」を近隣の小・中学校に配布することも考えられます。

【関連する活動】

- ・情報社会の課題と情報モラル(情報) ・話し合い活動の充実(各教科等)
- ・日常生活のモラルとルールについて考える(特別活動)
- ・スマートフォンや携帯電話等に頼らないコミュニケーション能力の育成のため、構成的グループエンカウンターを活用した活動(特別活動) など

高等学校活動例L「いじめの未然防止に関する活動のシェアリング」

項目(エ(その他)道徳教育・人権教育・情報教育等との関連を図った旨) 観点(③環境づくり)

【活動内容】

いじめの未然防止に向けた活動内容や感想などをまとめ、全校でその成果を分かち合います。

ねらい	いじめの未然防止に向けた取組の成果を共有することで、いじめは絶対に許されないという意識を高める。【環境】		
対象	生徒会を中心とした全学年	教育課程上の位置付け	(放課後の活動)
指導者	生徒会担当、ホームルーム担任を中心とした全教師		
時期	○活動の概要	□指導上の留意点等 ■主な評価	
6月～	○生徒会を中心に、いじめの未然防止に関わる活動について、校内に発信する計画を立てる。	□生徒会だけではなく、多くの生徒が主体的に参加できるよう工夫させる。	
	○活動例J「性と生について考える」において行った講演会におけるロールプレイングの様子や感想をまとめて発信する。	□情報発信の方法についてもアイデアを募集する。	
	○活動例K「携帯電話・スマートフォンの利用マナーを考える集会」の様子をまとめて発信する。		
	○活動例E「どさんこ☆子どもサミット」の様子をまとめて発信する。		
	年間を通して	○「生徒会だより」を継続的に発行する。 ・生徒の原稿を募集する。 ・各部局との連携を図る。	□携帯電話教室のアンケート結果について、新聞局・放送局と連携し、教師が確認した上で全校生徒に発信する。
	○「ネットマナーのしおり」など各活動における生徒の活動や感想を的確に、また、タイムリーに情報発信する手段について考える。	□生徒や地域の実態に合わせて、近隣の小・中学校へのいじめの未然防止についての情報発信も考えさせる。 小・中学校の活動例Lにつながる内容	

【本活動を行うに当たっての留意点等】

- 本活動例は、これまでに行った、いじめの未然防止に向けた各活動で学んだことや協議したことを可視化し、いじめの未然防止への生徒の意識が一層向上するよう工夫します。
- 作成したものが多くの生徒の目に触れるよう、全校生徒に配付したり、展示する場所を確保したりするなどの工夫が考えられます。
- 資料等の作成に当たっては、生徒が「いじめは身近な問題である」ととらえることができるよう、アンケートの結果を示したり、生徒の考えなどを示したりするなどの工夫をします。

【関連する活動】

- ・話し合い活動の充実(各教科等) ・情報モラル教育(情報)
- ・日常生活のモラルとルールについて考える(特別活動)
- ・いじめの未然防止に向けた各活動(各教科等、放課後や休日の活動)